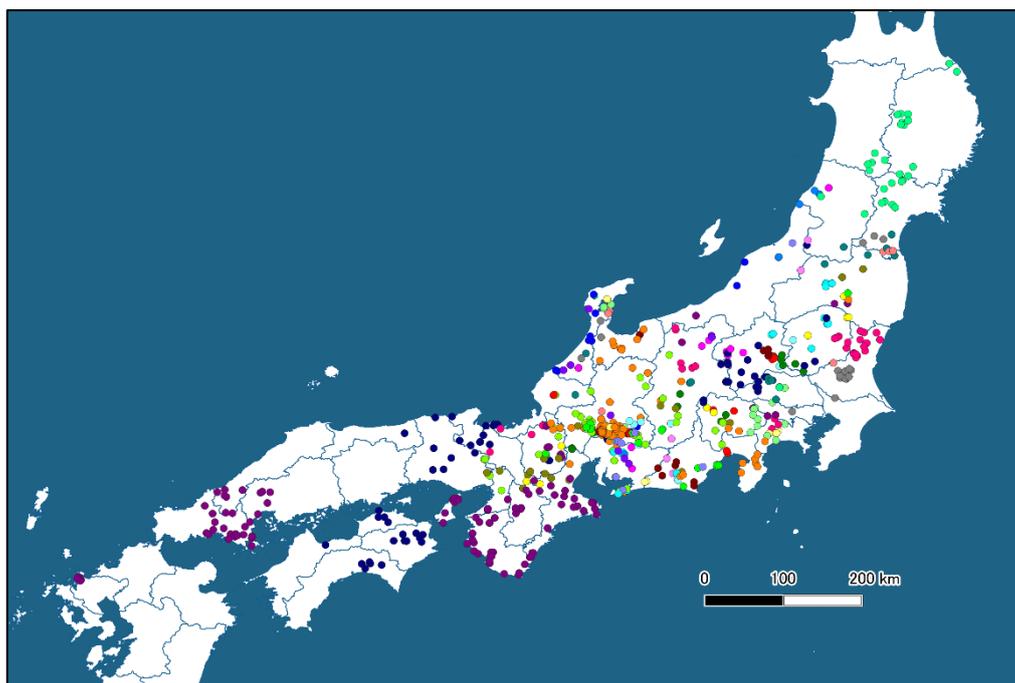


野生イノシシにおける「豚熱ウイルスの地域依存性」

豚熱は豚熱ウイルスによる豚とイノシシの感染症で、日本では 2018 年から流行しています。養豚場の感染は、農場周辺の野生イノシシに豚熱が感染拡大した結果、何らかの原因で農場にウイルスが侵入することで起こると考えられています。このため、野生イノシシ間でどのように豚熱ウイルスが流行したのかを知ることは、感染拡大の原因を推定したり対策を立てたりするために重要です。

☆ 技術の概要

1. 感染農場と感染野生イノシシから得られた豚熱ウイルスの遺伝子配列を明らかにしました。
2. ウイルスの遺伝子には常に変異が起こっており、変異の一部は子孫のウイルスに引き継がれます。そこで、検査した全てのウイルスの変異を比較することで、共通の変異を持つウイルス同士をグループ化しました。
3. ウイルスの採材地点をグループ別に色分けして地図上に表示した結果、流行しているウイルスがどのようにグループ分けされるかを見分けることができました。こうした情報から、ウイルスの拡大状況の把握や感染経路の推定を行うことができます。



☆ 活用面での留意点

本解析を活用した解析例は、農林水産省のホームページ「国内における豚熱の発生状況について>疫学調査の概要」(<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/domestic.html>)をご参照ください。

(農研機構 動物衛生研究部門 越境性家畜感染症研究領域 山本健久)